

- A. 日 時 2016 年 12 月 16 日 金曜日 18:00～20:00
B. 場 所 建築学会会議室
C. 出席者 横山主査 他 8 名

D. 提出資料（提出委員名）

- No.6-1 第 5 回居住性能評価指針改定小委員会兼第 3 回居住性能評価指針刊行小委員会
議事録案
No.6-2 第 15 回性能評価法検討 WG 議事録案
No.6-3 水平振動に対する被験者実験データを用いた評価方法検討結果の報告
No.6-4 実効値の比
No.6-5 第 16 回性能評価法検討 WG 議事録案
No.6-6 環境振動シンポジウム原稿・風振動

E. 議事内容

1. 前回議事録案の確認

資料 6-1 に基づき前回議事録案の確認があり，承認された。

2. 性能評価法検討 WG 報告

WG 主査より，資料 6-2～5 に基づき，11 月 2 日および 12 月 13 日に開催された WG の内容が報告された。

- ・ 非定常的な振動の評価に関する鉛直と水平の整合について（資料 6-2～5）
 - － 水平方向の非定常的な振動の評価について，2 種類の方法（鉛直振動と同じ方法，石川委員らにより今年度の大会で発表された b 値）を候補として検討していることが報告された（資料 6-2,5）。
 - － 水平方向の非定常的な振動の評価に関する検討結果（資料 6-3）では，振動継続時間を考慮した評価法として，鉛直振動に対して提案されている方法に一定の妥当性が認められる。b 値も被験者の心理量との対応は良いものの，継続時間を考慮できる方法とはなっていない。
 - － 石川委員の実験データでも同様の検討を実施中である。実験時に使用した非定常的な振動について，最大加速度振幅に対する実効値の比は 0.4～0.5 であった（資料 6-4）。
 - 水平と鉛直で同じ評価方法にできるよう要望があった。
- ・ 「評価レベル」について
 - － 鉛直と水平の統一について，領域と境界のどちらでレベルを提示するか，各レベルを表す表現，が検討課題であることが確認された。
 - － 心理反応に関する表現は，実験室での研究で得られた結果に基づくもので，居住環境での反応とは必ずしも一致しないことが指摘され，今後検証の必要があることを指針に記述することとした。
 - － 現指針の H-30, H-50 は，現時点では実務上で差をつける目安とされているが，新指針では 1 つのランクに包含されることについての懸念が実務者から挙がっていることが指摘された。

3. 水平振動評価に関する話題提供について

鈴木委員より、資料 6-6 に基づき、環境振動シンポジウムでの風振動を例とした水平振動評価に関する話題提供について説明された。

- ・ 新たな評価指針の基本的な考え方についても説明することとなっている。水平振動に関しては、長周期地震動など再現期間の長い事象を念頭に、日常的な振動のみでなく、非日常的な振動領域への拡張を視野に入れた評価指針とすることを説明する。
- ・ 水平振動の評価基準について、振動数、振動性状の観点で、風振動と交通振動の間の領域をいかに規定するかは今後の検討課題である。

4. 今後の予定

次回委員会は、3月10日（金）17:30 から開催することとした。

以上